

## 「耐震等級3」相当で建てる、これからの家づくり……日本列島は地震列島

世界で起こるマグニチュード6以上の巨大地震は5回に1回が日本で起きています。1995年には、いまでも私たちの記憶に深く残る、阪神・淡路大震災が起き、多くのビルや住宅、高速道路までもが倒れ、6,400人以上が死亡、43,000人以上の負傷者が出ました。また、最近では能登半島地震や新潟県中越沖地震、東日本大震災など、次々と大きな地震が発生しています。そして、首都直下型・南海トラフ地震などが予測されています



## 地震に強いSS構造体バリュー、3つの安心

建築基準法の1.5倍の耐震性



建築基準法1.5倍の耐震性

消防署や警察など防災の拠点となる建物がこの基準に相当します

SSバリューが設計の基準にしている「耐震等級3」相当は、国土交通省の住宅性能表示制度・耐震等級における最高等級であり、阪神・淡路大震災相当の地震の1.5倍の力に対しても倒壊しないレベルを表します。災害時の救済拠点となる消防署や防災本部、警察署などに求められる耐震安全性と同じ、最高基準です。

第三者の(株)LIXILが構造検査を実施



LIXIL CADセンター

わが家のプロフィール (設計検査報告書)

建築会社や工務店が設計した図面を(株)LIXILのCADセンターにおいて、1棟ごとに「耐震等級3」相当を設計検査。お客様には設計検査報告書「わが家のプロフィール」をお渡しします。また、工事期間中に住宅瑕疵担保責任保険法人によって、計2回の現場検査を実施。設計図どおりの施工精度を確認いたします。

万が一の時にも安心な耐震補償付



SSバリューで建築した家が、万が一、地震の揺れにより全壊した場合、最高2,000万円まで建替え費用の一部を負担します。

※耐震補償付き「スーパーstrong構造体バリュー」の詳細内容は、『耐震補償付き「スーパーstrong構造体バリュー」約款』をご確認ください。(株)LIXILのホームページをご覧ください。

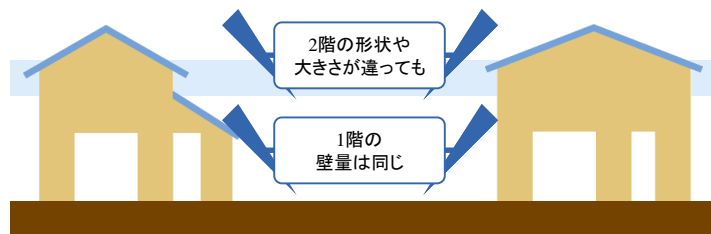
# 家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、補強を実施

「耐震等級3」相当の家づくりでは、壁の量・床の補強・基礎配筋等の仕様において、家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、しっかりした補強を行うため、開放的な空間であっても安心できる、地震に強い家を実現できます。

## SSバリュー「耐震等級3」相当の強さの理由

### 壁が強い

#### 建築基準法

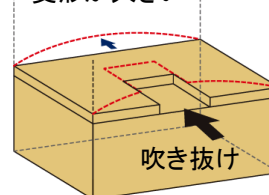


2階の形状や大きさにかかわらず1階の壁の量は一定※です。  
※1階の広さにより必要な壁の量を算出します(見付面積で算出する場合があります)。

### 床が強い

吹き抜けなどで部分的に床がないと弱くなる

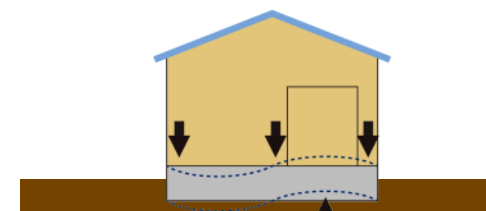
変形が大きい



床の形状や大きさにかかわらず補強方法は一定※です。  
※隅角に火打ち材(補強材)を使用します。

### 基礎が強い

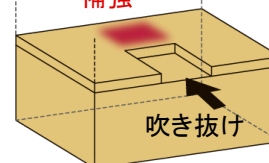
建物の隅角部や開口部などの柱間隔が大きい部分が弱くなる



地盤の強さに応じて基礎形式を選択するだけで、基礎配筋等の仕様は一定です。

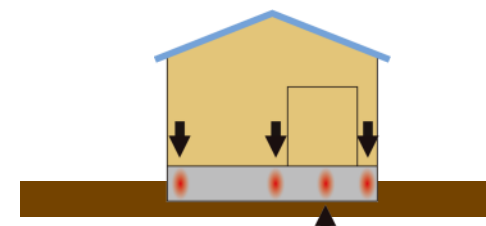
### 変形しにくい

弱い部分を補強



形状や大きさに応じて、必要な床の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

### 弱い部分を補強



建物の形状や大きさに応じて基礎を配置し、強度不足の場合は配筋の補強を行うため、地震に強い家といえます。